

行ってきますの先にはただいまがある

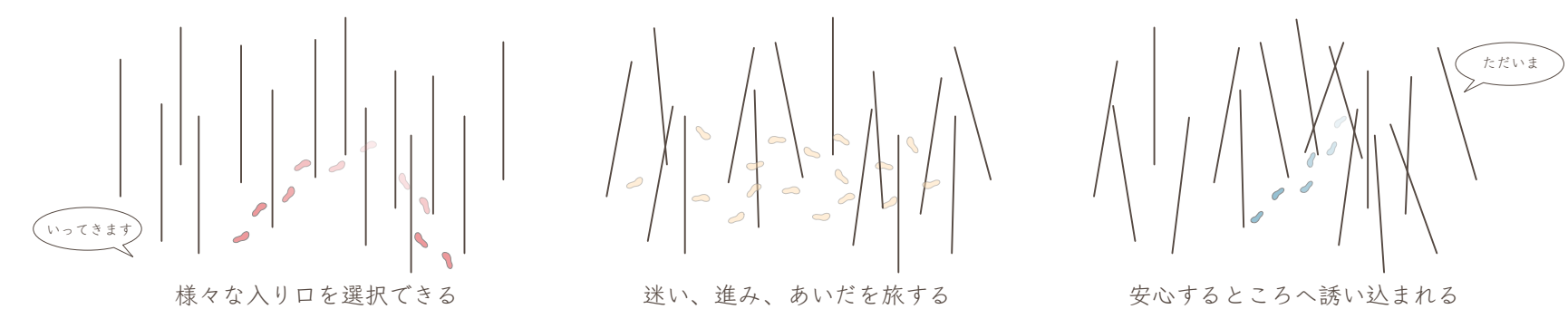


旅の解釈

行ってきますと言いつその場を去り、次に訪れた時、ただいまと言う。旅がはじまる時、おわる時、その言葉は大切な場所やものに向かって掛けられる。大切な何かは時にはいつてらしゃいと、時にはおかえりと返す。今回の提案であるこの空へたつ支柱は、全てのものを優しく送り出し、迎え入れる。行ってきますの先にはただいまがある。行ってきますとただいま、この間が旅であり、それらを一つの空間で表す。

提案

行ってきますの空間は、見る角度によっていくつもの道があらわれ、どこを通ろうかと期待しながら、迷いながら進む。ただいまの空間は、くぐり門のようにやさしく人々を迎え入れる。細い支柱は空にむかい、遠く霞み、近づくにつれてその存在感をあらわす。この支柱に縮尺はない。蟻にとっては草のような、カタツムリにとっては雨のような、キリンにとっては木のような。あらゆる生物の目線によって、多様な様相に変化する空間の提案である。



様々な入り口を選択できる

迷い、進み、あいだを旅する

安心するところへ誘い込まれる